

秋 田 大 学  
 教養基礎教育研究年報  
 47 - 54 (2012)

## マンガとライトノベルにおける姿形・言葉・ジェンダー表現 — 英語訳・独語訳と比較して —

石井照久・菊池友希子・立花希一・望月一枝

### Gender-expressions of the characters in Japanese, English and German mangas and light novels

Teruhisa ISHII, Yukiko KIKUCHI, Kiichi TACHIBANA, and Kazue MOCHIZUKI

日本語原作のマンガや文芸作品などでは、登場人物の性別が明かされずに物語が進み、途中で、性別が明かされることがある。この手法は、読み手の想像をかきたて物語を面白くする効果がある。それではそういった日本語原作のマンガや文芸作品が他の言語に翻訳された場合はどうなるのだろうか？英語や独語では、主語を省略することがほとんど不可能であるし、性別が明白な代名詞を用いる。そこで本研究では、登場人物の本当の性別を伏せて物語が進む日本語作品が英語や独語に翻訳された場合に、どのように表現されたり、工夫されたりしているのかを解析した。その結果、日本語原作の直訳に近い翻訳例、逆に原作に忠実でない意識された翻訳例が見出された。さらに原作よりも早く性別を明かしてしまっている翻訳例も見つかった。これらの翻訳は、翻訳者が日本人かどうかによって異なるようであった。本報告は、秋田大学教養基礎教育科目「総合ゼミ」の講座C「文化にみられる性」において、平成23年度I期の授業で展開された成果報告でもある。

In Japanese mangas or light novels, some stories involve the characters whose biological sex cannot be identified by their hair styles, faces, clothes and conversations. In Japanese, subject is able to omit in the sentences, however, unable in English or German sentences. It is easy to hide the sex of characters in the stories written in Japanese. In this study, we analyzed how those characters are described in the English or German translations of Japanese mangas or light novels. When the translator is Japanese, the translations have literal translations. But when the translator is not Japanese, the translations have free translations.

This report depends on the “Gender and Sex in Culture” course of “Special Seminar” which is one of the Akita University General Education.

#### はじめに

教養基礎教育科目である「総合ゼミ」(2単位)は2007年度に新規に開講された科目である。「総合ゼミ」はいくつかの講座からなっており、「文化にみられる性」はその一つである。「文化にみられる性」講座は、石井照久(動物発生学)、立花希一(倫理学)、望月一枝(ジェンダー学)の3名の教員(研究分野)で構成されている。このよ

うに「総合ゼミ」は、教育文化学部教員分野横断型授業でもあり、教育文化学部の基礎教育科目の選択必修の科目群の1つである。石井(2009)は「総合ゼミ」の新設の経緯・概要・授業形態、実際の2回の授業運営などについて報告している。また「総合ゼミ」のうち「文化にみられる性」講座の3年間の実践報告が石井・立花・望月(2010)によりなされている。さらに石井らは、「文化にみら

れる性」講座の活動として、マンガへの接し方をジェンダー視点からとりあげ、秋大生のマンガへの接し方に男女差があることを明らかにし、その要因を考察している(石井ら, 2011)。平成23(2011)年の「文化にみられる性」講座では、マンガや文芸作品を対象にして、日本語が原作のものが翻訳された時、性別にかかわる姿形・言葉・ジェンダー表現が言語を超えた時にどのように翻訳されるのかを解析することを目的に活動を行った。その結果、非常に有意義な結果が得られたので報告したい。本報告は、「文化にみられる性」講座の平成23(2011)年I期の活動成果報告でもある。

日本語の文芸作品などでは、登場人物の性別が明かされずに物語が進み、途中で、性別が明かされることがある。その場合、読者の予想や期待を裏切ることが多い。この手法は、読み手の想像をかきたて物語を面白くする効果がある。マンガなどでは、登場人物の見た目(服装、髪型など)により読者は一瞬で性別を判断してしまうが、その後、女装をしていた男性だった、などと明かされる。また、小説の場合は、登場人物の言葉使い、服装表現、行動表現(いずれも活字情報)などにより、性別を推察させていくが、ある時、その人物の本当の性別が明かされる。日本語が原作の作品の場合、主語を省略することが可能なため、そのような手法が可能となると思われる。もし登場人物の性別を明かさないうまま、物語を進行させることができるのは日本語を用いているからであるとする、そういった姿形や言葉遣いが本来の性とちぐはぐな人物が登場する作品を他の言語に翻訳すると、どうなるのだろうか。

昨今、日本のマンガやアニメが海外でも人気を呼び、翻訳・輸出されている。他の多くの言語が、日本語よりもジェンダー表現による制約が多いと思われる。他の言語の翻訳本では、予想と異なり、問題なく物語を進行させているのだろうか、それとも翻訳が困難な場面があるのだろうか?日本語以外では、主語を省略することは難しく、また、登場人物を代名詞で受けることが多く、その代名詞は性別が明白である。前述のような『ちぐはぐな登場人物』にかかわる描写は、他の言語に翻訳しきれのだろうか。その際、なんらかの弊害、あるいは工夫の必要が生じるのか。翻って、ジェンダー表現について、日本語の特徴が何か見えは

しないだろうか。本研究では、これらの点について、調査・考察した。

## 方法

### 対象作品の選択・入手・解析

性別が『ちぐはぐな登場人物』が登場する・英語訳あるいは独語訳が出版されている、を条件にマンガ4作品、ライトノベル1作品のそれぞれの日本語原作・英語訳・独語訳を入手した。ただし、マンガ1作品については、英語訳のみ入手した。

その後、対象人物の描写などに注目し、原作を含む他言語訳と比較・解析した。

### 出版社への問い合わせ

翻訳者自身の口から訳文の意図を聞くことができれば、本研究の大きな助けとなる。また、英語・独語以外に、どの言語で出版されているかが分かれば、どういった文化圏でその作品が受け入れられるのかを考える一助となる。そのため、メールあるいは電話で、各対象作品の出版社(合計4社)にコンタクトを試みた。

### 日本語以外の言語を主な母国語とする4名へのインタビュー調査

海外の読者が訳文を読む際、実際にはどう感じるのかは、日本人としては想像するほかない。より確かな意見を得るため、秋田大学所属の諸外国出身の語学教員など、4人へインタビュー調査を実施した。自らの話す言語に見られるジェンダー表現の特徴についての意見、および対象作品を実際に見た際の意見を伺った。

### 解析対象作品

以下に今回解析した日本語原作の5作品の著者(訳者)、発行年、タイトル、出版社を記載した。また5作品ともに原作・英語訳・独語訳の順で記載した。

- a)・葉鳥ビスコ(2003)『桜蘭高校ホスト部1』白泉社
- ・Kenichiro Yagi(2005)『Ouran High School Host Club』VIZ media
- ・Alexandra Betz und Dorothea Überall(2006)

## 『Ouran high school Host Club』CARLSEN MANGA

この作品は少女マンガである。主人公「ハルヒ」が女性だと明かされた後のいくつかの表現を解析した。

- b) ・高屋奈月 (2002) 『フルーツバスケット 8』白泉社  
 ・Alethea Nibley and Athena Nibley (2005) 『FRUITS BASKET8』 TOKYOPOP Ink.  
 ・Nina Olligschläger (2006) 『FRUITS BASKET8』 CARLSEN COMICS

この作品も少女マンガである。性別不詳なキャラクター「草摩利津」、通称「りっちゃん」が初めて登場するのが8巻である。そこで「りっちゃん」の初登場から、性別が明かされるまでの表現を解析した。

- c) ・日下秀憲, 真斗 (1999, 2010) 『ポケットモンスター SPECIAL 4, 7』小学館  
 ・Kaori Inoue (2009, 2010) 『Pokémon ADVENTURES Volume4,7』 VIZ Media  
 ・(独語訳なし)

この作品は少年マンガとも少女マンガとも言える(男女の区別なく『小学生』を対象にした雑誌に掲載されていたため)。男性を装って旅をするイエローという女性キャラクターが登場する4巻

と7巻を解析した。

- d) ・立川恵 (1998) 『夢幻伝説タカマガハラ 2, 3』講談社  
 ・Emi Onishi (2000) 『Dream Saga2,3』 TOKYOPOP Ink.  
 ・Ute Jun Maaz (2002) 『Dream Saga2,3』 EGMONT MANGA

この作品は少女マンガである。現実世界では少年、夢の世界では少女として存在する「那智」というキャラクターに注目する。「那智」が登場する2巻と3巻を解析した。

- e) ・時雨沢恵一 (2000) 『キノの旅 I, II』アスキー・メディアワークス  
 ・Andrew Cunningham (2006) 『Kino no Tabi』 TOKYOPOP Ink.  
 ・Jens Ossa (2006, 2007) 『Kinos Reisel,2』 TOKYOPOP GmbH

この作品はライトノベルである。性別不詳の主人公「キノ」の旅物語である。原文では1巻後半でキノが女性であることが明確になる。そのため、続く2巻までを解析対象とした。

## 解析結果

解析対象作品について、作品の形態・タイトル・著者・出版社・対象人物・本来の性別・対象人物

表1

形態	タイトル	著者	出版社	対象人物	本来の性別	対象人物の特徴
マンガ	桜蘭高校ホスト部	葉鳥ビスコ	白泉社	藤岡ハルヒ	女	一人称：自分 容姿：短髪、男装 備考：目的があつての男装
マンガ	フルーツバスケット	高屋奈月	白泉社	草摩利津	男	一人称：私 容姿：長髪、振袖 備考：性的嗜好はヘテロセクシャル
マンガ	ポケットモンスター SPECIAL	日下秀憲、真斗	小学館	イエロー	女	一人称：ボク 容姿：麦わら帽子が特徴 備考：帽子の下に長いポニーテール
マンガ	夢幻伝説タカマガハラ	立川 恵	講談社	和泉那智	男	一人称：俺 容姿：肉体的には完全な女性 備考：現実と夢の世界とで体が異なる
ライトノベル	キノの旅	時雨沢恵一	アスキー・メディアワークス	キノ	女	一人称：ボク 容姿：短髪、男装 備考：銃を扱う

の特徴、をそれぞれ表1にまとめた。

以下作品ごとに、特に注目した場面の表現とその訳文、そこから発生した疑問点、インタビューで得られた意見等を列挙する。

#### a) 桜蘭高校ホスト部

1. 主人公ハルヒが、以降男装で過ごすとする場面での発言。

日：「そうだ今度から「俺」って言おう」

英：“Maybe I'll use #@\$&\* when referring to myself.”

(脚注：) \*Here, Haruhi uses “ore”, a Japanese word for “I” that guys use.

独：“Ich werd mich sehr jungenhaft geben.”

2. 1を受けての次話での会話。

日：「俺としては男に見られても別にいいですけどね (後略)」

「女の子が「俺」なんていけません！」

英：“Look, #@\$& don't how I look. …”

“A girl should not say #@\$&!!”

独：“Mir ist es sch\*\*\*\*egal, ob ich für einen kerl gehalten werde.”

“Ein Mädchen benutzt keine ausdrücke 'sch\*\*\*\*egal'!”

この事例は日本語特有であろう、一人称の変化に関わる表現である。特に2は、ハルヒが「俺」と自分を表現した発言を受けた周囲の反応も描かれている。そのため、どうしてもそのニュアンスを表現しなければならない。

英語訳を見ると、原文にかなり忠実である反面、一人称の変化を『英語には存在しない表現』と切り捨てた印象をも受ける。この英語訳では、HERE, HARUHI USES “ORE,” A JAPANESE WORD FOR “I” THAT GUYS USE. という脚注がマンガ作中につけられており、それは通常にはないことである。

他方独語訳では、一人称に関わる記述が消えている。2では独語における『少女が使うべきではない言葉』が用いられ、それを周囲が咎めるとい

う構成に変化している。会話全体の雰囲気や展開、読者の理解しやすさを考えると、これは上手く考えられた訳文と言える。

#### b) フルーツバスケット

利津(ここでは「りっちゃん」)がパニックに陥った場合に備えての、従兄から、同居している従弟に対しての助言。ただし作中現在において、主人公(=読者)は利津が男だとは思っていない。また、この場面に主人公は不在である。

日：「おじさんからの豆知識「りっちゃんの暴れすぎには慌てず騒がず脇プッシュ」(中略)優しくしてあげてよ (後略)」

英：“As an old wise man once said, ‘when Ritchan gets out of control, without panicking or making a fuss, push his side.’ …Be nice to him,…”

独：“Sie sahen Onkel Shigures spezialtrick: den Ricchanrippenstüber! Wirkt im nu, klappt immerzu! … Könntest du ruhig etwas freundlicher sein, …”

原文には、利津を指す三人称代名詞は現れない。しかし英語では動詞の目的語が必要となるため、「his side」という表現が用いられ、日本語では隠せていた情報が明るみに出ている。独語でも似た現象が起きうるだろうが、ここでは文章の構成に工夫が見られ、言葉の上では秘密が守られている。(しかし、母語話者へのインタビュー調査から、りっちゃんが男性だという印象を受ける可能性が示唆された。)

#### c) ポケットモンスター SPECIAL

イエローの行動を監視(ここでは盗聴)している人物の独白。

日：「あ～あのバカ(中略)まあ、あのバカ正直ぶりじゃあそうそう隠し通せるわけもなかったか」

英：“That idiot! … Well, honesty’s a virtue, I suppose… it probably wouldn’t have stayed

a secret for very long anyway”

これは、訳文の入手前、前述 b) と同じように日本語では隠せていた性別に関する情報が明るみに出ると予測した箇所である。しかし実際には、人称代名詞を用いずに展開していた。

#### d) 夢幻伝説タカマガハラ

1. 主人公の仲間（仮称 A）に対する、王城の侍女（那智）の発言。この那智は、現実世界では主人公たちの男子同級生だが、作中現在ではその記憶を入手していない。また、読者もこの侍女が那智だと知らない。

日：「す すまない…」「それ以上進むな！」

「おまえ 髪たらしたほうがいいぞ」

英：“I am so sorry…” “Don’t go further than that!”

“You look better with your hair down, you know that?”

独：“Tut…tut mir Leid…” “Nicht weitergehen!”  
“Du solltest die haare lieber offen tragen.”

2. その後、侍女が那智だと判明した後の A の独白。

日：「中身はそのまんまだ」

英：“He’s the same inside.”

独：“Im inner ist er genauso.”

夢の世界での那智は、外見（肉体）は若く美しい少女であるが、性格（精神）は現実世界と変わらず男性のままである。この場面では、姿形とのちぐはぐさに加え、侍女という立場から鑑みても不適切な言動と映り、ゆえに読者にとっての伏線となる。

立場上不適切な言動は、独語訳により強く表れている。独語では親しさの具合によって「du（きみ、おまえ／近い相手）」「Sie（あなた／敬意を含む）」の二人称を使い分ける。本来ならば侍女が客人を示す際は Sie が適当だが、わざと du を用いることで、読者に違和感を与える効果を生んでいる。

2 は、夢の世界での発話では唯一、那智 = 男性

として表現されたものである。ここまでで那智の設定が明らかになっているため、ここで「彼：he/er」を用いても特に違和感はないらしい。

#### e) キノの旅

この作品については、どこかの一場面に特定せず、文章全体について考えたい。

日：三人称視点、時系列不順、キノを指す代名詞なし（名前のみ）

英：三人称視点、時系列順、キノ = she

独：三人称視点、時系列不順（原文通り）、キノ = Mensch/er → sie（彼女）

主人公キノ = 女性と明確に作中で示されるのは、第 1 巻（全 6 編収録）の第 4 話後半から第 5 話にかけてである。それ以前は、伏線こそあるが、どちらともつかない、あるいはむしろ男性的に描かれる。ただし、表紙などのイラストから、キノ = 女性と予測することも可能である。（逆に、イラストからキノ = 男性と思いきよ読者もいるが。）

この「あいまいさ」を、独語訳は忠実に表そうとした。各話の冒頭で「Mensch」と置き、以降「er」で受けることで、厳密には男性とも女性とも言及せずに第 1 巻は描かれる。第 2 巻以降も「Mensch」と始めに置くが、その後の代名詞は「sie」で一貫している。つまり、第 1 巻と以降の巻で、同じ主人公を指す代名詞が異なっている。

他方、英語訳はこの「あいまいさ」を徹底的に避けた。話の収録順を変更し、本来の第 5 話（キノの昔語り）を始めに置くことで、以降の文ではキノを「she」で表せるようにした。この英語訳が成立した背景には、英語圏の習慣が関係しているのではないかという指摘をアスマン先生から頂いた。英語圏では読者に合わせて文章を改変する（例：子供や英語学習者向けのシェイクスピアなど）ことが珍しくない。同様に、読者がより理解しやすいよう、話の順番を入れ替えたものと考えられるという。

#### 5 作品を通して

解析の結果、翻訳者が日本人（名前から判断）

か否かによって、訳文の特徴に差異が認められた。日本人による訳の場合、原文をそのまま置き換えた、いわゆる直訳に近い印象があった。そのため日本語話者には理解しやすいが、日本語特有の表現など、翻訳が困難だと予想される表現が、解決されないまま残っていると思われた。他方、日本人ではない（おそらく翻訳先の母語話者と思われる）翻訳者による訳文は、原文に忠実とは限らなかった。その一方で、文章の構成、語彙選択などで、現地の読者にとってはより自然であろう文章、話運びになっていた。

「フルーツバスケット」や「キノの旅」の解析から、日本語の特徴のひとつとして「三人称代名詞が示す対象の性をあいまいにできる」ことが判明した（たとえば「あの人」や実名表記など。昨今実名だけでは性別は判断できない）。他方、一人称・二人称について考えると、こちらは発話者の性を特定する要素として機能しうることが分かった。また、これらを意図して変更して使用することで（たとえば「桜蘭高校ホスト部」において、女性であるハルヒが、自身を男性に見せかけるため「俺」を使う場面など）、自身が他者に与えるイメージを操作することも可能であった。

### 出版社への問い合わせ結果

対象となる4出版社のうち、小学館とアスキー・メディアワークスからは、「そうした問いに対応する窓口がないため答えられない」との返答を受けた。白泉社と講談社からは、翻訳者へのコンタクト手段はやはり教えられないとの返答を受けた。

### 考察

#### 日本独自のサブカルチャーの海外進出とマンガの翻訳

日本での現代マンガの始まりは、呉（1997）によると、大正から明治後期だろうと言われている。日本人によって初めて日本で刊行されたマンガ専門雑誌は、明治7（1874）年に創刊された「絵新聞日本地」であり、子ども向けの最初のマンガ雑誌は明治40（1907）年に創刊された「少年パックス」である（京都国際マンガミュージアムのホームページより）。そして少女向けのストーリー少

女マンガは、なんといっても昭和28（1953）年の「少女クラブ」に初連載された「リボンの騎士」（手塚治虫著）である（押山，2007；谷口，2002；米沢，2007）。そしてマンガは昭和初期から後期、平成へとアニメ化・ドラマ化・映画化などに伴い発展をとげてきている。日本では2001年に日本マンガ学会も発足している（日本マンガ学会のホームページ）ばかりか、マンガ史全体の研究（呉，1997；竹内，2008；夏目，1997，2004；米沢，2007）も盛んになってきている。そして、いまや「マンガ」は日本固有のサブカルチャーとして海外へ沢山進出しており、さまざまな作品が外国語に翻訳されてきている。そしてマンガのみならずライトノベルも翻訳されているのも特筆すべきことであろう。

海外で翻訳され出版されているマンガ本の面白い所は、まずマンガのコマの読み進め方の説明が必ず訳本に注意書きとしてあることである。英語や独語の文芸作品では、アルファベット表記のため、普通横書きで、頁進行は左から右、すなわち左にめると物語が進行する。日本語作品でも横書きの文章の場合、同様に左にめる。しかし、ほとんど例外なく日本のマンガは右にめくるスタイルである。日本語のマンガ作品は、吹き出しが縦書きなので、頁進行は右から左、もちろんコマも右上から左下に進む。さすがに日本語原作のマンガ作品が翻訳された場合でも、コマの進行は日本語原作と同じに進行しなければならない。そこで、読み進め方の注意書きが必要となるわけである。英語訳マンガも独語訳マンガも頁進行が右から左で、コマ進行も右上から左下と日本語原作と同じとなる。ただし、吹き出しの中身は横書きで、しかもすべて大文字で書かれることが多い（大文字・小文字の区別がある作品も存在する）。日本語原作の場合、大文字小文字がなく、1つ1つの活字の高さ幅が同じなため、それに合わせるためにすべて大文字にしているようである。

#### 日本のマンガの特徴

日本の少年マンガ・少女マンガともに歴史は古いが、雲野（1996，1997，2006）が指摘するように、少年マンガは武闘至上主義、少女マンガは恋愛至上主義であることは、日本のマンガ史においてあまり変わっていないようである。これが海外でも

受け入れられて、沢山の作品の翻訳本が出版されているのは注目に値する。また、マンガのキャラクターになりきるコスプレファンは、もはや日本だけでなく海外でもたくさん存在する。マンガ=manga は立派な単語として海外で通用し、日本文化を代表する言葉にもなっている。

因(2010)が指摘するように、マンガのなかのジェンダー表現はジェンダー・イデオロギーの拡大再生産の強力な装置である一方、それを利用したり、揺さぶったりすることによって、読者の伝統的な古い価値観(女性ジェンダー表現が「やさしく、上品」など)を解放することに役立っているのかもしれない。日本では女の子のくせに少年マンガを読んで、と叱られることはすでになくなったことが、石井ら(2011)の報告から想像できる。つまり現代の大学生は、女子でも自由に少年マンガに接してきているのである。逆に男子学生は、少女マンガに抵抗がありあまり接していないとのことである(石井ら, 2011)。男性と女性でジェンダー意識が違うのも面白い現象である。前述のように、三人称表現をあいまいにできることにより、登場人物の性をずっとごまかして物語を進行することも可能であるし、一人称・二人称の呼び方の固定概念による性判断を利用して読者をあざむき、読者が思っていた性とは違うことを明らかにして物語をおもしろくする手法を使える日本語作品は、新しい価値観を創造する潜在力をもっていると考えられるため、日本語で創出されたマンガやライトノベルに接している若い世代のこれからのジェンダー表現と意識に注目していきたい。

### マンガとライトノベルにおける登場人物のジェンダー表現

マンガの中では、今回解析したフルーツバスケットの「りっちゃん」のように、男性であるのに女性っぽい衣裳を着ることを好む人物が登場することがある。すなわち本当の性から精神的に解放されているととれる登場人物がしばしば存在するのである。マンガが現代の若者の価値観にかなりの影響を及ぼすことが石井ら(2010)によって報告されている。すなわち、外見で判断できる性とはちぐはぐな登場人物の存在は、自らの性に悩む現代の若者を勇気づけている可能性がある。

教育の現場では、決められた性の制服を着るのが嫌で登校拒否になるケースが存在する。また、せっかく制服のない定時制の学校にいったのに、尿検査で性別が曝露してしまい、登校拒否になった、という事例もある。

人類は歴史のなかで、男性らしい、女性らしい、を先入観として植え付けてきている。一方、人の性は、単に染色体では決まらず、また脳のタイプも、極端な男性脳と極端な女性脳の2つにきっちりわかれているわけではなく、男性脳と女性脳の割合がいろいろである中間タイプが沢山あるようである。つまり人は男女に2分できない生き物なのかもしれない。こういった現状をマンガやライトノベルでも扱うようになってきたといえるのではないだろうか? マンガやライトノベルに登場する本当の性と『ちぐはぐな登場人物』は、本人にとってはごく自然なライフスタイルであることもあり、そういった人物の社会的認知にもよい方に貢献していると考えられる。

### 翻訳本の解析を通してみえる日本語の特徴

対象をジェンダー表現に限定した場合、日本語(が含むニュアンスなど)を他言語に忠実に翻訳するのは、極めて難しい。ことに一人称の違い、およびそこから派生する他者に与えるイメージの差は、一人称をひとつしか持たない言語には翻訳しきれない。したがって、翻訳の際にはたびたび障害が生じ、なんらかの工夫、あるいは妥協が必要となっている。翻訳者は、作品を構成する要素のどれを訳文に残し、どれを犠牲とするか、取捨選択を迫られていた。

では、特に英語・独語と比較した場合に浮かび上がる日本語の特徴とは何だろうか。もっとも大きなものは、発話をそのまま文字で表現しても、話者の性別の特徴(男性的、女性的、あるいはどちらでもない)が残ることである。そのため日本語母語話者は、誰かの発話を書籍で読んだ時、『話者の性が男か女か』を瞬時に推察できる。英語・独語においては、音声での発話には性別の特徴が伴うが、これを紙面にしてしまうと性別の特徴が消失する。この特徴は、日本語が多彩な一人称、および語尾表現(女性の「～わ(ね)」, 男性の「～ぞ(ぞ)」など)を備えることに由来すると考えていいだろう。

多彩な一人称を有するのが日本語の特徴であることは、日本人のジェンダー意識が強いことの裏返しなのかもしれない。話し言葉における日本語ではすぐに性がわかってしまうのである。ところが三人称表現をみると対象の性をあいまいにできることが多い。「あの人」「その人」だったり、実名だったりすると容易に性を判断できない。最近の大学生のファーストネームもひらがな表記にした時だけでなく、漢字表記にした場合でも、性を容易には、判断できなくなっている。赤ちゃんが生まれたとき、男の子の命名によく使う名前や女の子の命名によく使う名前があり、第三者は、名前をみただけで性別がわかるのが、ちょっと前まで当たり前であった。そこには男性の名前、女性の名前、という伝統的固定概念があったのである。また、命名に使う漢字自体にも男性向き、女性向き、がある（あった?）。これらをよりどころにして名前から性別を容易に判断できた時代はもう過ぎ去りつつある。

名前をみて性別がわかるかどうかは別にしても、日本語の三人称表現は、性別をあいまいにできる特徴がある。一人称や二人称が、性別を特定しやすい言葉が圧倒的多数である半面、三人称では性別があいまいとなる特徴をもつ日本語は、もしかしたら伝統的にはジェンダー意識が強かった日本文化を古い価値観から解放する潜在力をもっているのかもしれない。これは日本語の優れた点の1つなのかもしれない。

## 謝辞

インタビュー調査にご協力頂いた、宮本阿美菜さん、秋田大学教育文化学部のエマ・モリタ先生、同学部のシュテファニー・アスマン先生、同学部の三宅良美先生に、深く御礼申し上げます。

## 参考文献（ただし、解析対象作品を除く）

- 石井照久（2009）；教養基礎教育科目「総合ゼミ」の実践報告. 秋田大学教養基礎教育研究年報 11：1-8
- 石井照久・立花希一・望月一枝（2010）；教養基礎教育科目「総合ゼミ・講座E・文化にみられる性」の3年間の実践報告. 秋田大学教養基礎教育研究年報 12：1-27
- 石井照久・川邊聡子・今野大樹・松本勇紀・目黒耕平・立花希一・望月一枝（2011）；ジェンダーからみたマンガ－秋大生の視点から－. 秋田大学教養基礎教育研究年報 13：1-12
- 雲野加代子（1996）；漫画におけるジェンダーについての考察－少女漫画の恋愛至上主義－. 大阪明浄女子短期大学紀要 10：187-196
- 雲野加代子（1997）；漫画におけるジェンダーについての考察－少年漫画の武闘至上主義－. 大阪明浄女子短期大学紀要 11：157-169
- 雲野加代子（2006）；漫画におけるジェンダーについての考察－恋愛と武闘－. 大阪明浄大学紀要 6：77-85
- 押山美知子（2007）；少女マンガ ジェンダー表象論－〈男装の少女〉の造形とアイデンティティ. 全300頁 彩流社 東京都千代田区
- 京都国際マンガミュージアムのホームページ；[http://www.kyotomm.jp/HP/about\\_syozo.html#top](http://www.kyotomm.jp/HP/about_syozo.html#top)
- 呉智英（1997）；現代マンガの全体像. 全309頁 双葉文庫 東京都新宿区
- 竹内オサム（2008）；マンガ研究ハンドブック. 全246頁 竹内長武研究室 京都市上京区
- 谷口秀子（2002）；少女漫画における男装－ジェンダーの視点から－. 言論文化論究（九州大学言語文化部）15：105-114
- 因京子（2010）；マンガージェンダー表現の多様な意味. ジェンダーで学ぶ言語学 中村桃子編（全254頁）世界思想社 京都市左京区 pp73-88
- 夏目房之介（1997）；マンガはなぜ面白いのか その表現と文法. 全279頁 NHK出版 東京都渋谷区
- 夏目房之介（2004）；マンガ学への挑戦 進化する批評地図. 全238頁 NTT出版 東京都目黒区
- 日本マンガ学会のホームページ；<http://www.soc.nii.ac.jp/jsscc/index.html>
- 米沢嘉博（2007）；戦後少女マンガ史. 全393頁 ちくま文庫 東京都台東区